1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4773200029		
法人名	社会福祉法人 立命会		
事業所名	グループホームしらゆり		
所在地	沖縄県南城市知念字久手堅275-3		
自己評価作成日	平成25年7月21日	評価結果市町村受理日	平成25年10月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/47/index.php?action kouhyou detail 2012 022 kani=true&JigyosyoCd=4773200029-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市曙2丁目10-25 1F		
訪問調査日	平成25年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活に竹内式の水、飯、クソ、運動を取り入れています。一人ひとり好きな飲み物を提供し一日水分量1500cc以上の摂取し、脱水予防に努めています。又、管理栄養士の献立に沿って栄養バランスのとれた美味しい食事を手創りで提供しています。水分量栄養面のバランスがとれ病気をすることも少なく便秘の緩和にもつながり下剤服用の方はおられません。自立支援に努め日中は皆様綿パンツで過ごしトイレでの排泄支援行っています。毎朝、自然の中で全利用者様が職員と近隣へ散歩へ出かけ気分転換と活動量をあげています。毎週水、土パワリハを実施しADLの低下予防行っています。活動量が上がりほとんどの方が夜間の睡眠もよくなりますようになり、眠剤服用されている方はおられません。毎週木曜日はドライブへ出かけ毎週火、金は近隣のスーパーへ買い物へ行かれ地域の方とも触れ合う機会になっています。ほぼ毎月各字のミニデイへ参加し地域の方と触れ合う機会を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は法人施設等と同一敷地内に併設しているため、入居者や職員が顔馴染みが多く、毎朝、近くの世界遺産へ散歩をする際も声かけや見守りが行き届く環境となっている。既存の建物の為、入居者への支援やプライバシーへの配慮、職員の勤務上に若干改善を要する箇所には、職員の見守り体制や工夫を活かし対応している。入居者が全員一緒に地域のミニデイに参加したり、毎朝の散歩や毎週買い物に出かける等、外出を支援している。職員が入居者一人ひとりの週2回のパワリハや、「水、飯、クソ運動」の実践に取り組んだことが、入居者の残存機能の維持に繋がっている。法人と協同し、入居者が安心して過ごせる環境作りにも努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

確定日:平成25年9月24日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「受容」を意識しその人らしく、安心して暮らして頂けるような支援に努めています。	入居者一人ひとりの意思を尊重し、利用者への対応を第一に捉え、日常のケアに取り組んでいる。地域密着型サービスとしての意義を事業計画で謳い、生活援助の中で理念と合わせ実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社協や各字の民生員の方の協力を頂き5月～11月の間(感染症流行を避ける為)ほぼ毎月各字のミニデイへ参加してます。顔も覚えてもらえるようになりました。施設に招き、カレーを提供したりと交流が継続できるようになっています。	地域との交流はこれまで通り、入居者全員で各字ミニデイや行事への参加や、保育園や地域の方々を招いた敬老会や夕涼み会等の開催を継続している。地域住民への「認知症の理解」の取組みでは、「水、飯、クソ運動」や水分補給の大切さ等をミニデイ等の参加時に伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	各字によって認知症への理解度に差を感じることはありますが、毎回、温かく出迎えてもらい、積極的に介助して下さる方もおられ、毎年少しずつではありますが、深まってきたと感じます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回計画通りに会議が開催され、入居者様の状況、行事、取り組み等については、詳細に報告しています。アドバイスを取り入れサービスの向上に努めています。	会議は毎回定期に開催し、事業所の運営や入居者の活動状況等を報告している。会議には、入居者や家族、行政担当者が参加しているが、地域代表者は昨年3月以降不在が続き、委員選定も滞っている。また、外部評価結果の報告も議事録に記載されず確認できない状況となっている。	運営推進会議の意義を踏まえ、委員選定への取り組み、議事録の整備等、事業所運営やサービスの質向上に繋げるよう努めてほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員の紹介で、地域交流の繋がりや困難事例に対するアドバイスを受けています。広域連合より毎月介護相談員が訪問に來られ、ケアのアドバイス、サービスの質向上に努めています。	サービス利用の待機者等の紹介を行政窓口や電話で受けている。法人が行政から依頼され、各字で開催している「介護予防教室」と地域交流の日程が合う場合は、事業所職員も「認知症の症状」等を協力して説明に当たっている。また、社協と協力し、民生委員への講和も実施している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の玄関や窓は施錠をせず、自由に入りができるようになっています。不穏になりひとりで外出される方については、職員と一緒に同行しています。	事業所の方針は運営規定で謳い、マニュアルも整備している。入居者のふらつきや転倒等、家族の面会時に身体の状況を伝えて検討し、排泄誘導もある夜間帯は止むを得ないとして、センサーの使用を同意書等を得て実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修、接遇の研修等の勉強会を持っています。「受容」を基本の理念としています。暴言や不穏がある方へも受けとめケアの支援を行っています。		

沖縄県(グループホームしらゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人の研修会へ参加し、学びをケアに生かせるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	日頃からご家族様の要望や意見等は伺うように配慮しています。その都度、可能な限りコミュニケーションを行うように意識しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃よりご家族様とのコミュニケーションを大切にしています。玄関先に苦情ボックスを設置していますが、今のところありません。支援等相談がありましたら、すぐに改善し対応できるようにしています。	入居者の意見や要望は職員が1対1の機会に把握し、家族の意見や要望は、面会時や電話等を利用し、確認している。意見や要望は職員間で共有し、介護計画にも反映している。家族の意見「機能訓練」「体調管理」「衣類等洗濯物の管理」等に、職員は個別に対応できるよう、情報の共有を図っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース検討会議の中で、利用者さんのケアの気付きや改善等意見があれば、その都度全職員で、共有し支援に生かしています。毎月のケース検討会議では、全職員が参加し、サービスの質の向上、チームケアの向上へつなげています。	職員は毎月の会議に意見や要望、提案をしたり、管理者に直接休日の件で意見の申入れをしている。また、管理者も直に職員に声をかけ、言葉や表情から体調等を汲取り、メンタル面への気遣いをしている。職員の意見からは業務改善等は少なく、入居者のケアに関する意見が多く出されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	仕事をこなすスピードは、職員によって多少の差はありますが、労働時間は守られていると思います。手当や給料水準等も高い方だと思います。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体の研修が毎月あり、救急法や、ケア等、学んでいます。又竹内式の勉強会へ参加し、認知症についての知識向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	これまで行われていません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントの段階から詳細に生活歴や病歴等聞き取り、入居後は安心して施設での生活ができるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時には必ず声をかけ、本人さんの様子をお伝えし、ご家族様の様子もお聞きするように努めています。難しいご家族様には、段階的に進めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居待ちの利用者様へは、レベルを慎重に考えています。又入居待ちの間に、ADLが下がり、GHでの生活が難しいと考えられる時は、特養等に連携しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は意識し取り組むことができていると思います。現場の中で、意識が揺らぎそうな時は、声掛けしたりと、よりコミュニケーションを意識しています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時等に利用者様の状況を伝え、連携をとるようにしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常的に週2回近隣のスーパーへ買い物へ行き、なじみの方と会い談笑されています。地域の方と触れ合う機会ができています。	週2回(火・金)入居者が買物で出かけるスーパーで、地域の知人達と会う機会があり、より確実な交流の場とする為に曜日(金)を固定して支援している。また、馴染みの床屋を家族と一緒に利用したり、地域ミニデイでも多くの知人と入居者が継続して交流できるよう全員参加を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆様の個性を尊重し、テーブルの配置や車の座席の位置等、トラブルが多い方は工夫してお互い不穏にならないよう配慮しています。		

沖縄県(グループホームしらゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	希望に応じて対応しています。ほとんどの方が、母体である特養の方に移動されています。連携を取りながら、利用者様の支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の好きな飲み物、茶菓子、行きたい場所を優先にしています。意志疎通の困難な方へは、表情や行動観察、ご家族様へ聞き取り等し、ご協力の元対応するように心掛けています。	入居者の日常の動作で得た情報や、入居者や家族の意向等を介護計画に反映している。入居者の「できない事が多くなったので介助してほしい」「手伝ってもらい入浴したい」等の意向を把握している。把握が困難な場合も、これまで得た情報を職員間で意見交換し対応に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の実調や、入居後の生活の中で、状況を見ながらご家族様、地域の方、事業所の職員等より、聞き取りをしその方の生活歴を継続できるような支援に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル観察、心身の状態の把握に努め、訪問診療や、主治医と連携を取り、異常の早期発見、対応に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月行われているケース検討会議、3か月に1回のモニタリング実施し利用者、ご家族関係者の意見やアドバイス等計画書に反映させています。	介護計画は入居者や家族の意向、要望等を反映し作成している。毎日のバイタルチェックや週2回のパワリハは、職員も関わり残存機能の把握と心身の変化を観察し支援に活かしている。モニタリングは定期に実施しているが、サービス担当者会議は入居者や家族の参加が定まっていない。	定期的にモニタリングを実施しているので、入居者の介護計画作成に当たっては、サービス担当者会議に入居者や家族が参加して情報を共有できるよう、日程調整等に取り組んでほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は個人記録、全職員が共有する日報と2種類あります。共有する事で、介護計画書に反映出来統一した介護になるように支援へ努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体との行事参加、夕涼み会、ハーリー観戦、運動会と一緒に参加しています。母体の利用者の方や職員ともコミュニケーションを図り、楽しまれている様子が伺えます。		

沖縄県(グループホームしらゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ほぼ毎月各字のミニデイへ参加し、馴染みの方と触れ合う機会を持っています。地域行事のハーリー観戦は毎年参加しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	最近の体調の変化、認知症の周辺症状を詳しくお伝えしています。お薬が変更される時は全職員、ご家族へ連絡し、観察強化行っています。	協力医療機関から内科、精神科の訪問診療があり、医師に日頃の状況を職員が口頭で説明している。協力医以外のかかりつけ医へは家族が受診対応し、家族に口頭で説明しているが、中には、医師へ正確な情報を提供する為、薬の副作用等「受診連絡票」を家族に渡している方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、バイタルや心身の状況睡眠状況等の変化を申し送りし迅速な対応を心掛けています。必要時は、かかりつけ医、ご家族へ連絡し連携を取り早期に対応行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院中は、定期的に面会し、状況を確認できるようにしています。なるべく早く退院ができるようにご家族や担当医へお話を伺いし又、かかりつけ医にも間に入って頂きDrとの連携によって支援が行われています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	レベル低下が見られてきましたら、ご家族へ早い段階で、今後の話しをさせて頂いています。ご家族からは、環境を変えず馴染みのある場所が良いとのことで、母体である特養を希望される方がほとんどです。	入居の際医療が必要となった場合や、重度化した場合の事業所の取り扱い等を口頭で説明しているが、明確な方針はまだ文章化されていない。状況に応じて面会時等に家族と話し合いをして、併設の老人福祉施設へ入所希望する入居者が多く、看取りの経験は無い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回、法人の救急法の勉強会へ参加し、ダミー人形を使った人工呼吸、心臓マッサージAEDの使用も行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	スプリンクラーの設置完了しています。年に2回の消防訓練を通し実践で生かせるように取り組む事が出来ています。訓練時不穩になる方もおられ、声掛け等、配慮しています。	消防署協力の下、昼間、夜間想定で総合消防訓練を年3回実施し、消火器の使い方等も訓練している。地域との協力体制は無いが、併設の特養からの応援は得られる状況である。災害時に水、非常食、コンロ等が備蓄され、衣料品、オムツ等は、特養ホームに用意されている。	

沖縄県(グループホームしらゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報鍵付きのロッカーへ保管しています。可能な限り希望に沿うように努めています。不適切な対応がないか管理者は常に確認しています。	理念に「利用者の尊厳を尊重」とあり、入居者の気持ちを大切に支援している。管理者は常日頃より「気持ちの置いた」声掛けをするよう職員に話し、接遇の勉強会を実施し、方言や口調に気を付けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限りの支援に努めています。帰宅願望時は、ご家族とTELでお話してもらったり面会して安心して頂くように支援します。散歩や買い物等機会を持てるよう工夫しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりの生活のペースを保てるように支援をします。お昼寝が必要な方へは、お部屋で休んで頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴での清潔保持、男性は髭剃りを毎回実施しています。女性の方は、ご自分の好みの洋服で過ごされています。月に1回美容師さんが訪問され、カットや白髪染め行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物は利用者さんと一緒に行くようにしています。職員は利用者の表情や作業の様子を観察し、楽しく参加してもらるようにしています。もやしの髭とり、おしぼりたたみは毎日の日課になっています。	併設された特養の管理栄養士が献立をたて、食事は3食事業所内で調理し、入居者は食材の購入、野菜の下ごしらえ、盛り付け等のお手伝いをしている。詰込のある入居者には、少量ずつ食事を提供し、無くなったらおかわりにして配慮している。外出時にはハンバーガーも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立の元、GHで、調理を行っています。摂取状況は、記録し毎月体重測定を行い個々に沿った食事の支援を行っています。水分量も一日1500cc以上摂取されています。飲み物は、レモンティー、ポカリ、ジュース、コーヒー等バラエティにとんでいます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の状態に合わせて口腔ケアを行っています。必要に応じてご家族へ歯科受診へ受診勧めています。		

沖縄県(グループホームしらゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄誘導を基本とし、日中は全利用者様綿パンツへ意向ができています。夜間は、睡眠が妨げられる方に関しては、リハビリパンツで対応し、睡眠を優先にしています。	日中は全入居者が綿パンツで過ごし、トイレでの排泄を誘導している。夜間もトイレに目覚めた入居者には誘導し、綿パンツの方もいる。入居者の排泄状況に合わせ、パンツにタオルを縫い付ける等家族と相談し個別ケアをしている。午前中の散歩やお手伝い、午後のお風呂等、活動することで快眠快便に繋がっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量の増加と、寒天ゼリー、オリゴ糖提供、頑固な便秘な方へは、週に2回センナ茶提供し、排便のパターンを把握する事で便秘の緩和に繋がり、下剤の服用している方はいません。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴への声掛け、環境を工夫しています。女性利用者の方は、女性職員で対応し、羞恥心へ配慮、プライバシーを尊重しています。	換気や温度、脱衣所との温度差に気を付け、1対1で入浴を支援し、女性入居者には必ず女性職員が対応で毎日入浴している。「手伝ってもらいながら入浴」等のプランに沿い、個別の支援をしている。脱衣室と洗面室の入口が一緒の造りとなっているが、カーテン等の仕切りがない環境である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動量、水分量、定期的な排便が確保できた事で、夜間不眠の方はほとんどいません。眠剤服用される方はいません。眠れない方へは、温かい飲み物、お話しをして、満足してもらうように支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者の方で、服薬管理を行い、状態の変化、観察を行っています。詳細は記録に残し、与薬の方は各勤務者で行っています。服用に関しては、飲み込むまで確認、誤薬がないように一包可し、要確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の近隣散歩、毎週のドライブ、買い物支援、地域交流会又パワリハ等、毎日の気分転換になり活気に過ごされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩では自然の中で、一緒に花を摘んだり、景色を見て楽しんでいます。毎週木曜日のドライブ、毎月の地域交流会、毎週の買い物等可能な限りの支援を行っています。	日常的に事業所の周りを散歩していることもあり、歩行可能な入居者がほとんどである。週2回近隣のスーパーへ食品の買い出しに出かけ、週1回のドライブで公園や漁港、ハーリーの観戦、花見等を支援している。ホテルにランチバイキングやカラオケボックスにも出かけている。	

沖縄県(グループホームしらゆり)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今現在金銭管理が難しくなり、所持されている方はいません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様よりお話をしたいと訴えがあり、話したいとありましたら、職員がTELをかけご本人に代わりお話ししてもらっています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂は台所と同一しており、利用者様も食堂で、民謡芝居等を観たりくつろぐ方がほとんどです。職員が毎食調理するので、温かい家庭的な匂いがします。窓が多く外の景色が良く見え解放的です。	食堂は日当たりが良く、掃出しはデッキへつながり外へも出られ、入居者は外を眺めたりして食後もそのまま寛いでいる。廊下の赤いソファの場所を好んで食事を摂る入居者もいる。入居者が散歩で摘んできた季節の花を食卓に活けている。玄関の扉は重く、自由には開閉できない。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間になっている場所で皆さん過ごされる事が多いです。テレビを見たり、談笑したり一緒に歌を歌う方もいます。皆が集まる場所の定着になっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、使いなれたテレビ、寝具やテレビ、ソファ等を利用者の個性に合わせて配置しています。居心地の良い空間への工夫をしています。	居室には、ベッドと椅子が備え付けられ、自宅から筆筒やテレビ等を持ち込み、大工仕事の好きな入居者は自作のベンチや棚を置いている。布団生活に慣れている方には、ベッド脇に畳を敷き布団を利用している。居室のカレンダーにペンを取り付け、家族の来所日がわかるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室、洗面所、トイレ等、わかるように大きな文字で掲示し分かりやすくするように支援しています。		